

Pega Platform™

DXが進まない理由とDXを支援する BPMプラットフォーム



DXが進まない理由とDXを支援する BPMプラットフォーム(Pega Platform™)

個別最適を実現するローコードツールではDXは実現できない
全体最適を支援するDXを加速するBPMプラットフォーム(Pega Platform)とは

先行きが不透明で、将来の予測が困難な不確実性の高い状況にあるとされる現在。そういった状況下、デジタル技術は進歩を続け、そうした技術を取り入れ、企業変革（DX）を実現し、新たな企業価値の創造が求められている。DXを阻害する要因と、その解決策として注目されるBPMプラットフォーム（Pega Platform）を解説する。

持続的な企業価値、競争力の向上を図っていくため、急速なデジタル技術の進歩に対応し、企業変革の実現を求められる中、バックオフィス系業務においても、現場の業務をいかに高効率化するか、また生産性を上げていくかという業務改革のDXの実現が求められている。しかし、多くの企業は、DX実現の前段となる「デジタル化」の段階で足踏みしており、本格的にDXを推し進め、改革が行えている企業はそれほど多くない。「レガシー（過去の遺産）の障壁」がDX推進を阻害しているためだ。その要因は大きく3つある。

1つ目は、長期に渡って稼働を続けてきたレガシーシステムは、長年の改修・改善によって肥大化／複雑化していることが1つの要因と考える。システムの肥大化／複雑化は、改修・改善の難易度を上げ、改修費用の増大を招いている。年間のIT投資の大半を改修および保守費用に費やしている企業は多い。

2つ目は、レガシーシステムをベースに出来上がったレガシー業務があることだ。さらに、それらの業務はExcel、マクロなどを使ってシステム機能を補完し、属人化／個別

最適化された状態で成立している。こうした業務を行っている人の中には、DX推進に抵抗する人たちも多く、DX推進の働きかけも多大な労力が必要になる。

3つ目は、レガシーシステム／業務を横断的に理解してDXを推進する人材がそもそもいないことである。肥大化／複雑化したレガシーシステム、属人化／個別最適化されたレガシー業務、双方を理解するハードルは高く、人材育成もままならぬ状態であるのが実情だと考える。

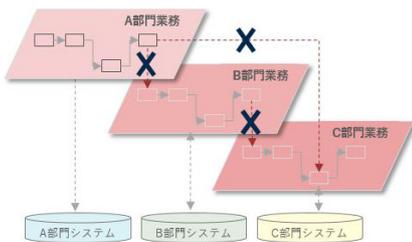
これらの大きな3つの要因から、業務変革のDXを行っていかにも具体的な打ち手を見いだせずにいる企業は多い。では、こういった状況の中においてDXを推進するには、どうすればいいのか。この解決策として注目されているのが、BPM（Business Process Management）ソリューションの導入だ。中でも最適解とされているのが、ローコード、BPMの機能を兼ね備えた「Pega Platform」である。

BPMに適したローコードで高い柔軟性を実現 あらゆる業種で利用できるBPMの最適解

■BPMによる部門横断的な業務改革・業務高度化の推進

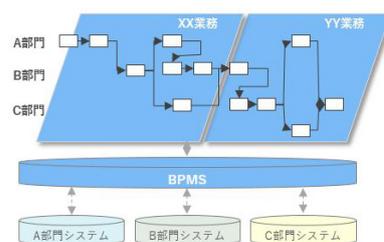
AsIs：各ビジネス部門独自の個別最適

各部門内の業務は最適化されているものの、部門間では業務プロセスが断然、属人作業とデータサイロ化



ToBe：部門横断的な業務プロセス管理

BPMにより業務プロセスを集約管理、部門横断的な業務改革・業務高度化の実現をドライブ



BPMを導入すると、業務プロセスが集中管理できるようになり、データが上流から下流にスムーズに流れるようになる。ToBeでも示している通り、部門横断的な業務プロセスの管理が可能になる。

Pega Platformは、BPMという領域において業界リーダーの実績を誇り、特に大規模での活用事例が多いツールだ。Pega Platformの強みは大きく3つある。

1つ目は、レガシーシステム、レガシー業務の課題に対処できるプラットフォームであることだ。IT投資費用を低減するため、レガシーシステ

ムを標準化された安価な SaaS に置き換えていくことも 1つの解決策となり得る。しかし、レガシーシステムをベースに成り立つレガシー業務を大きく変えることは難しい。Pega Platform は、システム連携に強く、複雑な業務プロセスを実現できるプラットフォームであるため、様々な SaaS とレガシー業務の隙間を埋め、段階的なレガシー業務の改革を実現できる。さらに、個別化、分断されたレガシー業務を一連の業務プロセスとして定義していることで、全社横断で業務プロセスを可視化でき、企業全体の DX につながる一歩を築くことができる。

2つ目が、DX 推進に抵抗する人たちがいたとしても、段階的に調整しながら開発を進められるプラットフォームであることだ。Pega Platform には、ローコード機能、BPM 機能があり、一定の制約下はあるが、迅速、簡単に、様々な業務に対応したシステムを構築し、改修・改善を行っていくことができる。そのため、早い段階で実際に動くシステムを見ながら、レガシー業務の担当者とシステム担当者ともに議論し、改修・改善を繰り返し、段階的にシステム構築を進めていくことができる。一方、構築した業務プロセスは、BPM 機能で可視化されるため、他の類似

■Pega PlatformはBPMに強いローコードプラットフォーム



Pega Platformは、ローコード開発を行うためのツールを2種類備えており、BPMに強みを発揮するプラットフォームとなっている。また、さまざまなシステムとの連携機能も備えている。

業務との比較、ノウハウ共有化も容易になり、DX 促進に寄与するものとする。

3つ目は、DX 人材の不足を補えるプラットフォームであることだ。IT 技術を把握し、自社全体の業務知見をもつ人材は存在しない、また、その育成は難しい。更にいうと、通常、業務システムを構築する高度な IT 技術を要し、それだけでも当該技術者の育成には時間がかかってしまう。このため、習得がたやすい画面を作るだけのローコードツールを使って、部分的なデジタル化を DX としている企業も多い。しかし、部分的なデジタル化では、企業価値を高める変容にはつながらない。Pega Platform であれば、2つの開発ツール（習得がたやすい画面を作るだけのローコードツールとしての「AppStudio」、業務システムを構築する高度な IT 技術をサポートする「DevStudio」）を提供することで、将来性のある DX プラットフォームとしての役割を果たすことができる。

自社の DX 人材の不足、技術者育成中の過渡期も、業務知見者、IT 技術者、外部の IT ベンダなど、役割分担を行ってシステム構築を進めていくことが可能だ。

日鉄ソリューションズは、日本企業として初めて Pegasystems と戦略的パートナーシップを締結し、Pega 製品の国内向けサポート（一次保守）、Pega 製品を使ったシステム構築および DX 推進の支援を行っている。豊富な開発経験に裏打ちされた業務知見を備える同社であれば、開発の肝となる業務部門との要件調整においても、これまでの経験を活かした的確なアドバイス・提案も期待できる。Pega Platform の導入を検討している場合は、日鉄ソリューションズに相談してみるとよいだろう。

日鉄ソリューションズ株式会社

〒105-6417 東京都港区虎ノ門一丁目17番1号 虎ノ門ヒルズビジネスタワー
お問い合わせ E-mail. dts-marketing@jp.nssol.nipponsteel.com
<https://www.marketing.nssol.nipponsteel.com/>

NS (ロゴ)、NS Solutions は、日鉄ソリューションズ株式会社の登録商標です。すべての製品名、サービス名、会社名、ロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。